

日光街道を歩こう会

(OP-5 粕壁宿)

記

■日 時：令和1年11月8日（金）8時35分集合

■集合場所：所沢駅 池袋行きホーム中央階段下

東所沢駅から乗る方は9:04発後ろから3両目（6号車）付近

■見学場所及び時間：コース全長約5.5km

所沢駅(8:43)⇒秋津・新秋津(9:01)⇒南越谷・新越谷⇒春日部（9:54）
⇒春日部市郷土資料館⇒八坂神社⇒東八幡神社⇒東陽寺⇒碓神社
⇒道標⇒古利根公園橋⇒山中千住観音堂⇒問屋場跡⇒永島庄兵衛商店
⇒最勝院⇒成就院⇒徳寿庵（昼食12:30）⇒春日部…新越谷・南越谷
⇒新秋津經由所沢（15時半頃帰着予定）

■交通費（所沢から）：約2,000円

■昼食 12:30 徳寿庵

■散策先簡単ガイド

<粕壁宿>

粕壁宿は日本橋から数えて4番目の宿場町で、古利根川(ふるとねがわ)を通じて江戸と結んだ物資の集散地として栄えました。日本橋から36kmの距離で、一日歩き通すとちょうど1泊目となる宿場町でした。天保14年(1843)の「日光・奥州・甲州道中宿村大概帳」によれば本陣1軒、脇本陣1軒、旅籠45軒、問屋場1ヶ所、家773軒、人口3701人でした。

南北朝時代(14世紀)、新田義貞の家臣春日部氏が当地を領地としたことから「春日部」の地名が生まれたとされます。その後、正保年間(1645年頃)には糟壁、糟ヶ辺という表記が交互に使われており元禄年間(1700年頃)に粕壁、糟壁と記す漢字表記が明治初期あたりまで使われていました。春日部駅も開業時から1949年までは粕壁駅という漢字表記で使われていました。1944年合併により春日部町となりましたが今でも春日部駅東側は粕壁町です。

<春日部市郷土資料館>

春日部地域の歴史を、旧石器時代から近代・現代まで時代順に展示しています。

<八坂神社>

粕壁宿の入り口にあった八坂神社は六斎市がたつたことから宿場の市神様として信仰されており、祭礼は現在の春日部夏祭りの起源でもある。

八坂神社は明治以降に須佐之男命を祭神として祀っているが、神仏分離以前は「牛頭天皇」を祀っており、いまでも天王様として親しまれています。社殿は明和7年に火災に遭っています。現在の社殿は平成22年に放火により焼失し再建されたものです。



<東八幡神社>

一ノ宮交差点（一ノ宮とは東八幡神社）は粕壁宿の入口で鍵状に曲がっており、ここに茶屋があったといわれます。東八幡神社は下の八幡様とも呼ばれ、交差点から粕壁宿の鎮守東八幡神社へ通じる道は「下の八幡様の参道」と呼ばれ、以前は元禄9年（1696）造りの石鳥居が建っていました。現在は、文化13年（1816）造りの石灯籠と再建の石鳥居が建っています。江戸時代の力持ちの三ノ宮卯之助が天保3年（1832）に奉納した力石があります。



本殿の彫刻は見事です、また樹齢600年のケヤキのご神木があります。

<東陽寺>

元禄2年（1689）「奥の細道」の旅で、松尾芭蕉が東陽寺に宿泊したともいわれており、松尾芭蕉の記念碑があり、曾良の随行日記の一節の「廿七日夜、カスカベニ泊ル。江戸ヨリ九里余」が刻まれています。



<竹内家脇本陣跡>

粕壁宿の本陣の変遷は下表のとおり。

年 代	本陣を勤めた家	現 在 地
	①関根次郎兵衛家	仲町郵便局辺り
	②関根助右衛門家	本陣標柱
宝暦 4(1754～)	③見川家	埼玉りそな銀行向い辺り
文化 6(1809～)	④小沢家	群馬銀行辺り
嘉永 2(1849～)	⑤竹内家 [※]	金子歯科医院辺り

※：高砂屋竹内家は本陣となる前は脇本陣

<匠大塚>

日光東照宮を作るために集まった職人が春日部に住み着いたことから春日部箆筒が春日部の特産品となっています。その箆筒の街春日部が大塚家具の発祥の地です。経営方針をめぐり創業家対立し、父がロビンソン百貨店の後に匠大塚を設立しました。春日部駅の南口には大塚家具創業の店があったが、現存していません。

<碓神社>

県指定天然記念物の**碓神社のイヌグス**がある。根回り 10m、樹齢推定約 600 年で、イヌグスの生育の北限とされます。

この碓神社付近に下喜蔵河岸（しもきぞうがし）という船着場があり、イヌグスは古利根川（ふるとねがわ）を通る船にとっての目印になったようです。

<道標>

旧家の田村本家の前には道標があり「西南いハつき(岩槻)、北日光、東江戸、右之方陸羽みち」と刻まれています。

<古利根公園橋>

県鳥シラコバトをデザインした風見鶏と春日部市特産品の麦わら帽子をイメージした橋です。橋の上には 6 点の彫刻もあります。（小休憩）



<山中千手観音堂>

俳諧師の増田眠牛は、千手観音を背負ってこの地方を行脚していましたが、粕壁の米問屋伊勢平の家に滞在するようになった。その後、伊勢平が好意で建てた観音堂で生活するようになり、やがてこの地で一生を終えた。眠牛を慕う人々は、その観音堂の境内に墓標を建て、千手観音を祀って信仰したといいます。元は粕壁の山中という所に祀られていたもの。宝珠が土瓶の形をしているという。



<永島庄兵衛商店>

穀物商長島庄兵衛商店の屋根には鍾馗様が飾られています。江戸時代末頃から近畿では屋根に鍾馗様を置く風習が見られます。向かいの家が鬼瓦を飾ると鬼瓦で追い払われた厄鬼は前の家に行き災いを起こすといわれ、前の家は鍾馗様を上げるという風習があります。関東ではあまりないが、中山道の上尾宿では多く見られました。



<最勝院>

慶安元年（1649）15石の朱印状を拝領した御朱印寺で、春日部重行公の墳墓がある。慶安4年将軍家光の遺骸を日光に運ぶ時にこの寺に一時安置しました。明治26～30年には千住馬車鉄道の終点となりました。



千住馬車鉄道レリーフ
於古利根公園橋

<成就院>

山門にある仁王像が立派。

この辺りは寺町で寺が多い地域です。

<徳寿庵で昼食>

12:30～の予定。残りは春日部駅まで200m強歩くだけです。

